大丸にサンタの影

防犯カメラに映る赤い人物

11月23日早朝、大丸札幌店（札幌市中央区北5西4）の店内防犯カメラに、サンタと思われる「謎の影」が映っていたことが判明した。また、店内のさまざまな場所で笑い声、鈴の音、足跡といったサンタの痕跡らしきものが残されていた。同店でサンタの痕跡が発見されたのは今回が初めて。サンタ捜索チームでは、さらに詳しい調査を進めている。

「一瞬、自分の目を疑いました。誰もいないはずの店内にサンタがいたんです」。サンタと思われる老人を、防犯カメラ越しに発見した大丸札幌店の警備員は、当時の衝撃をこう語る。

札幌の都心部にある大丸札幌店のカメラに異変が起こったのは、11月23日の早朝、開店前の同店6階部分。防犯カメラをチェックしていた警備員がある1台のカメラの前を通り過ぎる赤い衣服を着用した人影を発見した。その4分後、今度は7階のエスカレーター部分で同人物とおぼしき影を発見。カメラを横切るとすぐに姿を消したという。不審者が侵入したと思った警備員はすぐに無線で、巡回中の他の警備員に連絡し、自身も現場へ急行。だが現場には誰もおらず、商品が盗まれた形跡もなかった。他の警備員からも侵入者や盗まれた形跡は確認されなかった。

同店が捜索チームに連絡したことから、今回の事件が明らかになった。同チームは、すぐに捜査員を同店に派遣、本格的な調査を行なった。

2013/11/23 06:48:25
2013/11/23 06:52:42
6階吹き抜け部分を横切る、謎の赤い影（上）
4分後、7階上りエスカレーター部分でも発見（下）＝札幌市中央区、大丸札幌店

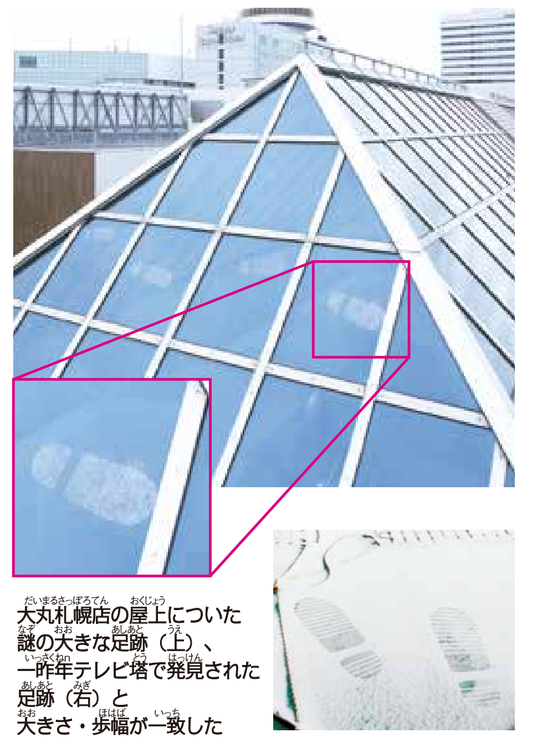
鈴の音や笑い声 トナカイの姿も

捜索チームが調査を進めると、ほぼ同時刻、同店入口付近を「HOHOHO（ホーホーホー）」と笑いながら、消えた老人の姿が通行人によって目撃されていたことも判明。また「シャンシャン…」と鳴り響く謎の鈴の音も周辺にいた通行人が聞いていたことも分かった。さらに、同店付近には、動物の影が複数見えたこともタクシー運転手らの話によって明らかになっている。その動物は、普通乗用車ほどの大きなそりを引いており、先頭にいた1頭だけ鼻が赤く光っていたという。あるタクシー運転手は「あれはトナカイだったのでは。長年、この界隈にいるが、このような不思議な現象に遭遇するのは初めて」と首をかしげる。

サンタ捜索チームが再始動して十数日、思いもよらないサンタの「フライング来札」に、関係者は困惑。捜索チームの早急な対応が望まれている。

屋上でも足跡発見

長さ約40㌢、一昨年発見の物と一致


大丸札幌店の屋上についた謎の大きな足跡（上）、一昨年テレビ塔で発見された足跡（右）と大きさ・歩幅が一致した

大丸札幌店でサンタと思われる影が記録されていた当日、さらに同店で痕跡が発見されたことが分かった。今度は屋上に、大きな足跡が数個ついていたのだ。清掃している係員が、同店の8階吹き抜け部分の天井窓に、長さ約40㌢の大きな足跡がついているのを発見した。足跡は窓ガラスの途中で消えており、何者かが同店の様子を観察したのがうかがえる。捜索チームが足跡を持ち帰り、専門部署において調べたところ、一昨年テレビ塔の屋上で発見されたものと一致した。

捜索チームでは、この足跡をサンタの物と断定、ライブカメラの映像も踏まえ、サンタがフライングで札幌にやって来たものとみて、その目的や経緯、滞在した時間の洗い出しに力を入れる方針。発見された足跡も、欧米諸国の専門調査機関に持ち込み、検証を重ねる予定だ。また、大丸札幌店付近の他の場所でも、サンタの目撃情報がないか調べを進めるという。

大丸札幌店、捜査に全面協力

一連の目撃情報を受け、捜索チームはクリスマス当日もサンタが再訪する可能性が高いとして、大丸札幌店にサンタ捜索の協力を依頼。同店屋上に、サンタの姿を捉えるライブカメラをはじめ、トナカイの鼻から発せられる特殊波でサンタの動きを捉えるトナカイレーダーの改良版を設置する方向で調整するという。都心部でのレーダー設置は、今までは大通エリアでしか実績がなかったが、今回の設置で、サンタの位置をより正確に特定できるものとして効果が期待される。

今回の事件について、大丸札幌店店長・香川暁子さんは「最初聞いたときは信じられませんでしたし、本当に驚きました。サンタクロースが当店に来たことだけでもびっくり。でも、クリスマス前に来てくれたなんて光栄です。当店には、夢を持った小さなお子さまから夢を忘れないすてきな大人まで、多くのお客さまがいらっしゃいます。当店を夢あふれる場所と捉え、ぜひサンタがクリスマス当日も来てくれたらと期待しています。私どもも夢見る気持ちを大切にしお客さまに接していきたいですね」。

特捜班も出動

懸命の捜索続く

今回の事件を受け、サンタ捜索チーム特捜班「S・A・N・T・A」は、先月30日、札幌駅前周辺の大規模な捜索を行った。捜索には、特捜班の専従追跡班から10人、分析捜査班と飛行偵察部隊からそれぞれ3人が参加し捜索にあたった。

最重点地域捜索を得意とする専従追跡班は、周辺ビルや通行人への聞き込み調査を行い、サンタ目撃者の情報を収集。また、特殊情報を分析する分析捜査班は、発見された別日でも大丸札幌店の防犯カメラの解析を進めている。アダムスキー博士を筆頭とする飛行偵察部隊は、大丸札幌店屋上で再度現場検証を行った。

特捜班によると、新たな痕跡の発見はなかったが「今後発見される可能性がある」として、今月中旬に2回目となる捜索を行う。

プレゼント選びか

サンタ研究者の見解

今回の痕跡発見について、サンタ研究の第一人者であり、サンタ巡回説研究をしているアイスランドのライナーギュスタブ博士が「プレゼント選定活動の一環で来たのでは」というコメントを発表した。

博士によると、サンタクロースは1年のうち、ほとんどの時間を「プレゼント選び」に費やすといい、学会では通説となっているという。「サンタ行動学」では、11月下旬の時期は〝プレゼント選定作業〟の最終調整期間とみなされている。今回の来訪もその一環と考える。人や夢の集まる場所ほど、サンタが下見に訪れることが多いため、クリスマス前に再訪する可能性も否定できない」とした。

博士によると、以前よりサンタがプレゼント選定活動を行う機会が増えたという。「昨年5月にオーストラリアのキャンベラ、今年8月にはタイ・バンコクなど、シーズンオフにもかかわらず世界各国でサンタ目撃報告が挙がっている。学会では、近年子どもたちの趣味や嗜好（しこう）の多様化によって、サンタがプレゼント選びに苦労しているのではないかといわれている。サンタは、可能な限り子どもたち一人一人の理想に近いプレゼントを用意する習性があり、その苦労は計り知れない」と話す。

今回の大丸札幌店の事件はすでに博士によってサンタ学会に報告。今後も国内外で検証が進められる見通しだ。

特捜班 強める警戒

JR札幌駅周辺を重点

サンタの手掛かりが多数発見されているスポットとして、サンタフリークの間で近年広く知られているのは、札幌の大通公園界隈。今年は札幌駅周辺も重点捜索エリアとしてリストアップされていることが、取材班の調べで判明した。道内のみならず、道外、海外からも人が押し寄せるほどの人気スポットとなったこのエリアの中で、強い集客力を誇るのが大丸札幌店だ。オープンから10年余り。同店は、札幌を代表する百貨店として道内外から注目を集める存在となっている。これまでの捜索結果を踏まえると、サンタは人が集まる場所、楽しい場所に出現する傾向にある。その意味でも、同店を含めた札幌駅周辺は、サンタ捜索において見逃せないスポットと判断された模様だ。

サンタ発見が期待されている大丸札幌店

洋風の外観に親近感も

約4万5千平方㍍もの面積を誇る売り場には、子供服やクリスマス雑貨など数多くの商品が充実。クリスマスプレゼントやクリスマスアイテムを探すにはうってつけの場所であるため、サンタが下見に訪れる可能性が高いと捜索チームは注目している。店内は天井も高く、ゆとりのある空間となっており、身長約170㌢、体重約120㌔といわれる大柄なサンタでも快適にプレゼントの下見ができそうだ。

同店の外観もポイントだろう。重厚な柱と大きな窓ガラスが印象的であり、どことなくヨーロッパの建築物を想起させる。フィンランドからやって来るサンタにとって、なじみ深いデザインに引き寄せられるのではないかという推測もなされているという。

また、サンタがコンタクトをとる可能性が極めて高いと考えられている、大丸のオリジナルキャラクター「さくらパンダ」の存在も大きい。捜索チームは「さくらパンダ」をサンタ捜索に当たっての重要人物、いや、重要パンダと位置づけ、同店に協力を依頼。サンタ発見への足掛かりにしたいと意気込んでいる。

どうしん夢プロジェクト 広告企画

クリスマス連載コラム SANTA NOTE サンタ・ノート

こだわり雑貨で楽しむ 北欧のクリスマス

サンタクロースのふるさと・北欧では、クリスマスは家族でゆっくり過ごすことが多い。12月25日の4週間前からは「アドベント」といわれる期間に入り、各家庭ではお祝いの準備を行う。ここで活躍するのが雑貨である。

北欧では、派手に飾り立てはしないが、アットホームな空間づくりのために、さまざまな雑貨を使用する。温もりを演出するためのキャンドルや室内照明、部屋や玄関にはサンタのお手伝いとして信仰されている妖精の人形などが置かれる。

今年のクリスマスはこうした北欧風の過ごし方を楽しんでみてはいかがだろう。日本でも近年、高いデザイン性と機能性に富んだ北欧の雑貨が人気を集めており、デパートなどの店頭に並んでいる。お気に入りの雑貨に囲まれた空間は、クリスマスをより特別な時間にしてくれるはずだ。

サンタプラス

サンタと仲良し？

パンダ聞く語る

パンダクロース、サンタと文通も

2007（平成19）年3月、上野で「さくらパンダ」として誕生。性別不詳。上野公園の桜と上野動物園のパンダをモチーフとしており、パンダの黒い体毛部分にサクラ柄がデザインされているのが特徴。語尾に「まつぅ」と付けるのが口癖。大丸松坂屋百貨店のマスコットキャラクターとして人気を博し、10年よりクリスマス期間限定で「パンダクロース」としても活躍中

大丸松坂屋百貨店の人気キャラクター「さくらパンダ」。愛くるしい表情と「〜まつぅ」という独特の語尾で、多くの人に愛されているこのパンダが、クリスマス限定で「パンダクロース」に変身。今回は「パンダクロース」にクリスマスに向けた意気込みを聞いた。

最初に「パンダクロース」になった経緯を聞くと、クリスマスはみんなにもっとハッピーになってほしいという願いがあったからという。そこで、〝パンダクロース祭〟と題し、応募者全員プレゼントを行ったのをはじめ、全国各地のクリスマスイベントに参加。「たくさんの人にハッピーを届けていたんだまつぅ」とうれしそうに話してくれた。

2010年にはフィンランドへ行き、サンタとトナカイにも会ったという。そのとき、サンタに『パンダクロース』と名乗ることを許可してもらい、より活動を広げていった。さらに驚くことに、サンタとの手紙のやり取りも行っているというパンダクロース。サンタからは〝今年も24日の深夜に行くよ〟という内容の手紙が届き、パンダクロースからは〝ミルクとクッキーを用意する〟と返信したという。

パンダクロースは最後に「今年もたくさんみんなと会いたいまつぅ。クリスマスは大丸に遊びに来てください！まつぅ」と独特の動きで語ってくれた。

さくらパンダ捜査員誕生

特捜班「S・A・N・T・A」入り発表

大丸・松坂屋の人気公式キャラクター「さくらパンダ」が、サンタ捜索チーム特捜班「S・A・N・T・A」に加入することが、関係者の話から明らかになった。これは、大丸札幌店のサンタ捜索活動の一ついい、「さくらパンダ」は早ければ本日からチームに合流し、捜索活動に当たるという。

「さくらパンダ」は、同店の人気キャラクターとして

捜査のカギを握る「キーパンダ」に

活動する中、クリスマス時期限定でみんなに幸せを届ける「パンダクロース」としても活動中。「パンダクロース」と名乗ることについては、フィンランド・サンタ村のお墨付きだ。

通常、特捜班「S・A・N・T・A」は、サンタ検定2級以上、サンタ捜索10カ所以上の実績があるベテラン捜査員しか加入が認められないが「さくらパンダ」は、サンタとの親和性が高く、捜索活動でも貢献するものとして、特例扱いで特捜班に加入した。今回「さくらパンダ」はその活動の合間を縫って、可能な限り捜索活動に参加。特捜班で重点地域の捜索を行う「専従追跡班」に在籍し、大丸札幌店を中心に都心部の捜索を担当する。サンタに関する情報収集や当日の張り込み調査も行う予定。

今後は、札幌市内某所で訓練に参加し、捜索に必要な知識や技術を身に付ける見通し。大丸札幌店では、これまでにサンタ痕跡発見や目撃情報が相次いでおり、「さくらパンダ」の動きに期待する声も多い。

今月の〝見どき 行きどき〟

サンタさんに、今年の「いいこと」報告

メッセージボックス設置

大丸札幌店で、12月25日まで

店内に設置された、サンタへのメッセージボックス

「サンタさん、今年はこんな〝いいこと〟したよ」。──サンタに向けて今年した「良いこと」を書いて伝える伝言板コーナーが、大丸札幌店に12月25日まで登場する。それぞれ今年行った「いいこと」をサンタに報告することで、サンタに思いを届ける取り組みで、大丸札幌店では初めて。

1階特設コーナー部分に、大きなガゼボ（パビリオン）が配され、サンタへのメッセージを記入し投函できる「メッセージボックス」を設置する。ボックスには、クリスマスリーフの一種である柊を形どったメッセージカードが置かれており、このカードに今年行った良いことと、サンタへのメッセージを記入し、ボックスに投函。集まったメッセージは、1週間ごとにまとめられ、ガゼボの外側に取り付けていくという。このガゼボ自体にも華やかなクリスマス装飾が施され、その裏側は、パンダクロースとの記念撮影スペースにもなっていることから、家族連れはもちろんカップル・友人同士でも楽しめる。

大丸札幌店の広報・中井香住さんは「サンタさんは、みんなの夢が集まるところにやって来る特別な存在。サンタさんへのいいことの報告はもちろん、お願い事やサンタへのメッセージなど自由に書いていただき、思いを集めることで、サンタさんに立ち寄ってもらえるパワースポットになれば」とPRする。中井さんは「お子さんはもちろん大人の方のメッセージも大歓迎です。夢を見るのは子どもだけではありません。実は私もサンタさんへのお願い事を書いてボックスへ投函しました。私たちと一緒に夢を見て、札幌にサンタさんを呼びましょう」と呼び掛けている。

さっぽろサンタ探訪

パンダクロースに会いに行こう！

来店者に人気のスポット

1階吹き抜け部分では、パンダクロース（人形）と12月25日（水）まで記念撮影ができる

札幌市内でサンタに関連する場所に焦点を当てるこのコーナー、第1回目は「パンダクロース」で注目を集める「大丸札幌店」をご紹介。

クリスマスにサンタを呼ぶためには「サンタを信じる力（夢見る力）」が必要。同店では、夢見る力を高めるために、店内全体をクリスマス装飾にしている。1階にはサンタへのメッセージ投函コーナーやパンダクロースとの記念撮影コーナー、6階グリーンパティオには、ここで撮影するとサンタに思いが伝わるといわれる撮影コーナーも。また、8階吹き抜け部分には、本記事でも紹介した長さ40㌢の「サンタの足跡」を見ることができる。また、1階で集まったメッセージの一部は8階のイルミネーションタワーにも掲出され、みんなの「信じる力」が集まった様子を見ることができる。

お薦めは、同店の「パンダクロース」に会うこと。特捜班入りしたパンダクロースは、見た目もかわいらしく、運良く見つけられたらぜひ記念撮影しておきたい。クリスマスまであと3週間、サンタへの期待が高まる同店から目が離せない。

捜索チーム 活動雑記

■トナカイレーダー試運転（1日） 札幌市中央区に保管されている「トナカイレーダー」の試運転を開始。レーダーの開発者であり、昨年度から特捜班「S・A・N・T・A」内の飛行偵察部隊に所属するアダムスキー博士の指揮の下、レーダー3台の試運転が行われた。今月中旬にかけて、試運転と精度向上のための実験を重ね、クリスマス本番に備える。

■チーム内にてサンタ川柳募集（2日） 捜査員の士気を高めるため、捜索チーム内で「サンタ川柳」を募集している。寄せられた作品は、随時紙面で紹介するほか、サンタ捜索Webやフェイスブック等に掲載予定。

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月上旬朝刊予定

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。